

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）

（分担）研究報告書

ブロック拠点病院のない自治体における中核拠点病院の機能評価と体制整備のための研究

課題番号：H30-エイズ-一般-003

【分担研究4】地域で実践的なポケット版小冊子の作製

研究分担者：高田 清式（愛媛大学医学部附属病院 教授）

研究要旨：四国のようにブロック拠点病院が近辺になく、県内の個々のエイズ拠点病院が十分に機能していない、いわゆる地方の比較的医療過疎である地区に、本研究によってHIV診療の充実や均てん化が促されていくことが期待されている。この背景のもと、療養病院および福祉施設に簡便にHIVに関するマニュアルが手元にあることが知識の確認や啓蒙につながると考え、ポケット版の介護マニュアルの発行を考えた。令和元年度の研究成果として、地域でHIV診療に関する実践的なポケット版小冊子の作製（最新の愛媛や四国の現況や針刺し事故時の感染予防内服薬を配備している病院名など具体的に刷り入れた）し四国の主なHIV診療施設および介護および福祉施設に配布を行った。これらの施設ではハンディで判りやすいと概ね好評であった。

**研究分担者**

末盛浩一郎・愛媛大学医学系研究科・特任講師

井門敬子・愛媛大学医学部附属病院・副薬剤部長

若松綾・愛媛大学医学部附属病院・看護師

小野恵子・愛媛大学医学部附属病院・総合診療サポートセンター・ソーシャルワーカー

**A. 研究目的**

ブロック拠点病院が近辺にない愛媛県において当院は、エイズ地域中核拠点病院に指定され、累計180名以上の患者を治療している。四国地区は近年HIV・エイズ患者の増加が著しく、大半の患者が当院に受診している。かつ四国地区は、高齢化率が29%前後の地方であり、都市に比べ高齢者のHIV・エイズ患者が多く、HIV感染およ

び合併症が進行し日常生活に差し障りが著しく自宅以外での長期療養が必要な例も少なくない。当院は急性期病院の立場であり、自宅で生活困難な長期療養患者の対応については、他の施設への紹介・受け入れを個々の事例において行っているがHIVに対する不安や感染リスクが問題になり、受け入れに難渋しているのが実情である。さらに治療以外にも家族対応および就業面など社会的な対応も迫られることも多い。これらの実情のもと、数多くの医療スタッフによるチーム医療が必要な領域であることを踏まえ、当院では数年前よりHIV診療チームを立ち上げ活動しつつある。こうして愛媛県各地域の各病院・施設と連携を行うように努めているものの、対応すべきHIV感染症患者は多くかつ経済・人材面も満たされておらず、連携しうる病院・施設への

啓蒙や人材の育成も患者数の増加からは極めて不十分な状況である。

この背景のもと、療養病院および福祉施設に簡便に HIV に関するマニュアルが手元にあることが知識の確認や啓蒙につながると考え、ポケット版の介護マニュアルの発行を考えた。

## B. 研究方法

介護時の HIV 感染予防対策なども折り込んだ、愛媛および四国での実用的な（最新の愛媛や四国の現況や針刺し事故時の感染予防内服薬を配備している病院名等具体的に刷り入れた）HIV に関するポケット版マニュアル（18 x 10 cm 大程度の予定）を作製し県内および四国の主だった HIV 診療施設に配布した。また、各出張講義の全参加者にこの介護用のポケット版マニュアルを配布し感想や意見を聴取し次回の介護用の小冊子の改訂版にも反映させる。

このポケット冊子に関しては、事前評価委員からも面白いという意見・評価もいただいており、今後現場での意見も聞きつつさらに改良した冊子を将来は作製したい。（倫理面への配慮）

患者および関係者に対する人権の保護に配慮して行い、調査に協力できない場合も不利益にならないようにする。

## C. 研究結果

介護時の HIV 感染予防対策なども折り込んだ、愛媛および四国での実用的な（最新の愛媛や四国の現況や針刺し事故時の感染予防内服薬を配備している病院名等具体的に刷り入れた）HIV に関するポケット版マニュアル冊子（18 x 10 cm 大程度）を作製し県内および四国の主だった HIV 診療施設

に配布した（図）。

The figure consists of 12 informational cards arranged in a 3x4 grid. The cards contain the following information:

- Top Left:** HIV 感染症の介護マニュアル (簡易版/2019年度版) - HIV 診療・ケアチーム制作
- Top Right:** 介護時に参考になる検査所見. 1. CD4陽性リンパ球数 (基準値500~1000/μl). 2. HIV-RNA (ウイルス量) (基準値<200 copies/ml).
- Second Row Left:** HIV/AIDS患者数. 2016年末現在の世界推計. HIV陽性者生存数 3670万人 (3080万~4290万人).
- Second Row Right:** CD4陽性リンパ球数と日和見感染. 日和見感染はCD4陽性リンパ球数が減少すると起こる.
- Third Row Left:** 1997年以降の現在、HIV感染症の診療・ケアは重症でなければ外来通院を中心に治療しています.
- Third Row Right:** CD4陽性リンパ球数とウイルス量と治療. HIV-RNA (ウイルス量) と CD4陽性リンパ球数.
- Fourth Row Left:** 現在使用可能な抗HIV薬 (愛大病院). AZT, ddI, ddC, ddE, ddT, ddV, ddI, ddC, ddE, ddT, ddV, ddI, ddC, ddE, ddT, ddV.
- Fourth Row Right:** 25歳のHIV感染者の推定平均寿命. HIV陽性者の平均寿命は約75歳.
- Fifth Row Left:** 曝露された場合の対応 (まず). ① 曝露された顔面や皮膚を石鹸・流水で十分洗浄.
- Fifth Row Right:** HIV曝露後予防内服について. 予防が必要なら、曝露後可能な限りHIV薬をすく.
- Sixth Row Left:** 消毒剤の使用法. ① 消毒剤の種類. ② 消毒剤の濃度.

図 HIV 介護マニュアルポケット版

## D. 考察

令和元年度の研究成果として、地域で HIV 診療に関する実践的なポケット版小冊

子の作製（最新の愛媛や四国の現況や針刺し事故時の感染予防内服薬を配備している病院名など具体的に刷り入れた）し四国の主な HIV 診療施設および介護および福祉施設に配布を行った。これらの施設ではハンディで判りやすいと概ね好評であった。

地方において、充足した生活が 1 人では送れない HIV 感染患者に対し、拠点病院および介護福祉間の連携が円滑にできるように努めていく必要があると考える。その参考としてこのポケット版マニュアルが多少でも役立つことを期待している。

## E. 結論

ブロック拠点病院がない地域において、HIV 診療体制整備として、介護および福祉施設の充実を目的に、HIV 感染症に関する介護用マニュアルを作製した。

## F. 健康危険情報

該当なし

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

1. 今日の治療指針 2019 年版、256-257、2019、高田清式：消化管寄生条虫症。
2. 日本エイズ学会誌、21(2)：256 -257、2019、中村美保、前田英武、西田拓洋、四國友理、小松直樹、武内世生：HIV 陽性者の医療機関受診についての実態調査。
3. J Infect Chemo : doi.org/10.1016/j.jiac.2019.09.008、Nakao A, Yamanouchi J, Takenaka K, Takada K : The Iowa Gambling Task on HIV-infected subjects.
4. IDCases. : 2019 Jul 27;18 : e00609、Yanagisawa N, Takeuchi S, Nakamura M, Yoshida Y, Teruya K, Takada K : Large

abscess formed in the abdominal wall by Mycobacterium avium complex : A case of unmasking immune reconstitution inflammatory syndrome.

### 2. 学会発表

1. 高田清式、末盛浩一郎、山之内純、西川典子、辻井智明、井門敬子、木村博史、乗松真大、武田玲子、若松綾、小野恵子、中尾綾、HIV 関連神経認知障害 (HAND) における髄液中のネオプテリン量および HIV-RNA 量と様々の ART 療法後の変化、第 33 回日本エイズ学会・学術総会、熊本、2019 年 11 月
2. 若松綾、武田玲子、芝田佳香、宮崎雅美、藤原光子、小野恵子、中尾綾、乗松真大、木村博史、末盛浩一郎、井門敬子、山岡多恵、高田清式、愛媛県における実地研修の現状、第 33 回日本エイズ学会・学術総会、熊本、2019 年 11 月
3. 中尾綾、山之内純、末盛浩一郎、竹中克斗、高田清式、HIV 陽性者に対するアイオワ・ギャンブ リング課題と BADS との関連、第 33 回日本エイズ学会・学術総会、熊本、2019 年 11 月
4. 蜂谷敦子、佐藤かおり、豊嶋崇徳、伊藤俊広、林田庸総、岡眞一、瀧永博之、古賀道子、長島真美、貞升健志、近藤真規、椎野禎一郎、須藤弘二、加藤真吾、谷口俊文、猪狩英俊、寒川整、中島秀明、吉野友祐、堀場昌秀、太田康男、茂呂寛、渡邊珠代、松田昌和、重見麗、岡寄玲子、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊大、中村麻子、小島洋子、森治代、藤井輝久、高田清式、南留美、山本政弘、松下修三、健山正男、藤田次郎、杉浦互、吉村和久、菊地正、国内新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性

HIV-1 の動向、第 33 回日本エイズ学会・  
学術総会、熊本、2019 年 11 月

5. 西田拓洋、中尾綾、中村美保、川田通  
子、海面敬、臼井麻子、池谷千恵、吉川  
由香、武内世生、窪田良次、尾崎修治、  
佐藤穰、千酌浩樹、和田秀穂、山下光、  
山之内純、高田清式、中国四国地方におけ  
る HIV 関連神経認知 障害に関する研究－  
体制構築－、第 33 回日本エイズ学会・学  
術総会、熊本、2019 年 11 月

6. 芝田佳香、宮崎雅美、渡辺美沙、武田  
玲子、若松綾、小野恵子、木原久文、末盛  
浩一郎、井門敬子、中尾綾、竹中克斗、  
高田清式、山岡多恵、非英語圏のエイズ患  
者に対する看護を行った一例、第 33 回日  
本エイズ学会・学術総会、熊本、2019 年  
11 月

#### H. 知的財産権の登録状況（予定を含む）

該当なし